

テーマ3 学校における働き方改革



水戸市版地域学校協働活動の推進 ～教員の負担軽減に向けた地域との協働の事例～

発 表 者 水戸市教育委員会 生涯学習課 社会教育主事 石井 浩司

コメンテーター 森 万喜子 氏（前小樽市立朝里中学校校長）

水戸の教育

[教育目標]

知性にとみ、心身ともに健全な風格をそなえた人間（水戸人）の形成につとめる

[基本理念]

水戸を愛し、世界で活躍できる人材の育成

水戸市立学校

- ・ 小学校：32校
 - ・ 中学校：15校
 - ・ 義務教育学校：1校
- 計48校**

水戸市の市民センター

1小学校区に1市民センター



イメージ図

コミュニティ・スクールの推進

《水戸市版コミュニティ・スクール》

常磐小コミュニティ・スクール (H17～)

浜田小コミュニティ・スクール (H19～)

全小中学校で
コミュニティ・スクール
スタート (R元～)

《水戸市版地域学校協働活動》

双葉台地区 (R4～)

全地区でスタート
(R6～)

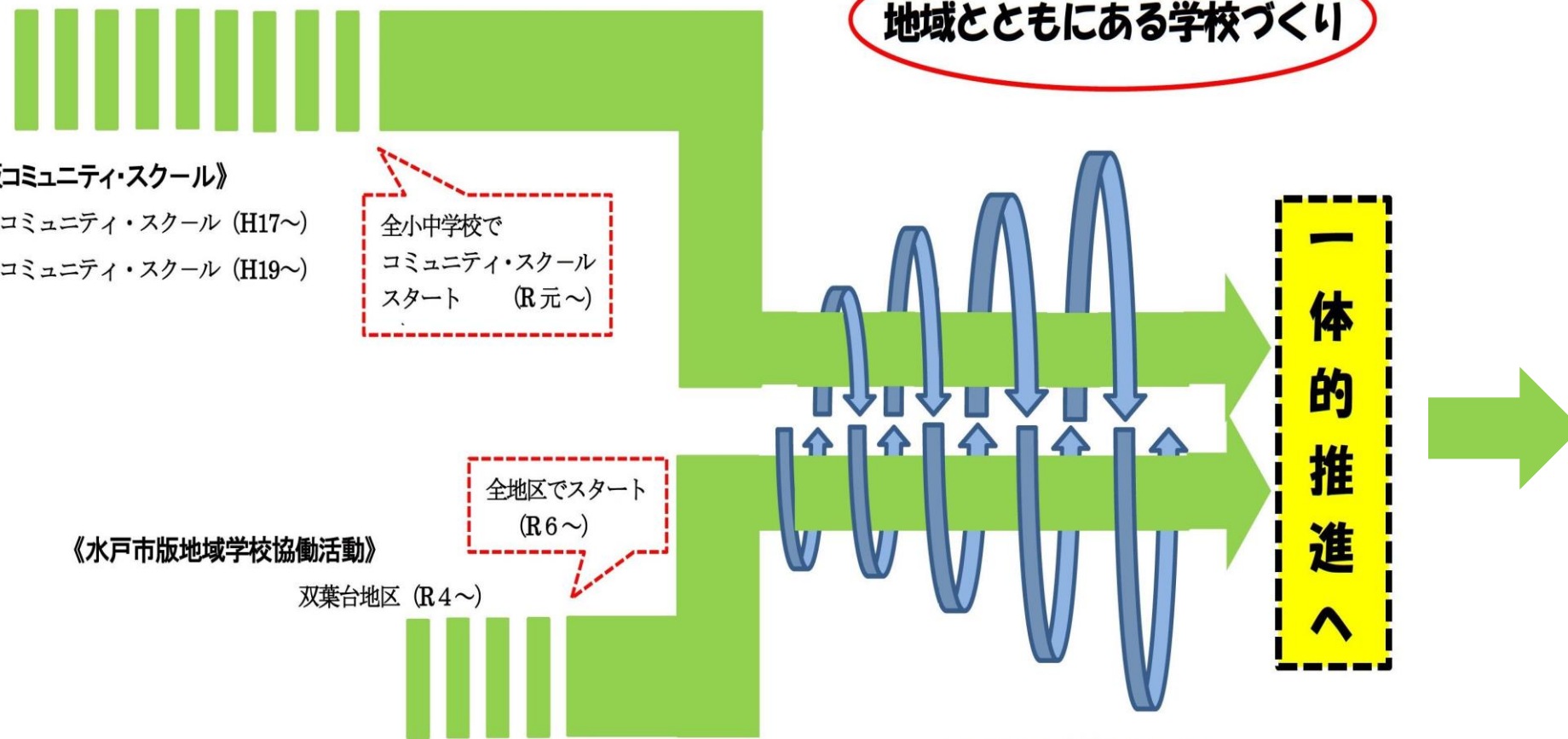
地域とともにある学校づくり

一体的推進へ

学校を核とした地域づくり

地域とともにある特色ある学校づくり

地域学校協働活動の推進



水戸市版地域学校協働活動の仕組み



水戸市の特徴：1小学校区に1市民センター

連携・協働

学校

地域

学校運営協議会で協議された課題や提案等を、市民センターに伝達。

支援ニーズ

参画

自治会，女性会
高齢者クラブ，
PTA，
社会教育団体，
文化団体，
スポーツ団体，
企業・NPO等

市民センター
【コーディネーターの役割】

学校運営協議会で協議された課題や提案等を地域と共有し、支援体制を構築。

依頼

学校支援活動

地域の参画を得て学校を支援。



(校内担当者)



(所長)



(地域住民)

水戸市版地域学校協働活動の仕組み構築の経緯

感謝・そうして地域とともにある学校

小中せいの活動の連携 + 育成会 = 地域清掃

（しんどやりたいとこを休日にやろ） 児童の自覚性 保護者の協力

地域の市での自発的清掃ボランティア。中学生の力大きい

地域の清掃に子どもの参加を!! (双葉台地区は高齢化が問題)

学校の恩恵呼びかけ!!

子どもが来て地域の方が知ること。高齢者も知らせるには

山根地区 3世代 + 清掃活動 (開江) ニさげら!! 農道をきれいにする

子ども会が与える力。その力を生かすことで... 子どもが少なくなると... 子どもが少なくなると... 子どもが少なくなると...

せいろを地域の交流活動に!!

学校 + 育成会、住民の会

学習環境安全部活

支援ボランティアとして

学習 (小) PTA中心にボランティア活動を実施 (中) 募集の窓口がほしい

安全 保護者 + 地域 (PTA、安心の会等)

部活 (中) 地域部活動の取組 → 土日は5つの部活動で専門のスタッフが指導 野球部 少年保生 地域部

学習 (育成会) 教えて地域の先生、その事業 (今地へいそいが...) 地域のおおきG.T.として活用したい!!

部活 (野球部) 一緒にやってくる

知識の窓口(コネクター) 地域の窓口(コネクター) 地域の窓口(コネクター) 地域の窓口(コネクター)

(双葉台小中学校)

参考

【概要】学校における働き方改革に関する取組の徹底について(通知) (mext.go.jp)

学校運営協議会の議論

【学校と地域で共有する目標やビジョン】

『当たり前前を当たり前前にする、
心身ともに健全な「ふたばっ子」の育成』

《子どもたちには、楽しく学習してほしい》

○第3学年：音楽科「ちいきにつたわる音楽でつながろう」

教員の負担軽減

◎ 学びが深まり、より積極的に授業に取り組むようになった

- ◎ 楽しく音楽活動をしている地域人材の活用
 - ・地域人材の発掘における教頭の負担軽減
 - ・教材研究や授業をともに行うことによる担任の負担軽減



和太鼓教室の様子



(浜田小学校)

学校運営協議会の議論

【学校と地域で共有する目標やビジョン】
子どもたちの『ふるさとづくり』



「子どもたちには、地域の歴史等をしっかりと知ってほしい」

- 第2学年：生活科「まちたんけん」
- 第4学年：社会科「飲み水を求めて（笠原水道）」
- 第5学年：総合的な学習の時間「備前堀」

教員の負担軽減

◎ 専門家に直接話を聞くことで、より理解が深まった

- ◎ 地域の歴史に精通している地域人材の活用
 - ・教員の教材研究の時間や授業での負担の軽減
 - ・地域学習が苦手な教員や若手教員にとっての資質向上



授業の様子



コミュニティ・スクール通信を兼ねた学校だより

コミュニティ・スクール新聞(平成19年4月23日創刊)

コミュス浜田

水戸市立浜田小学校
TEL 224-2717
FAX 224-2718
第86号 令和5年6月30日

令和5年度春季大運動会が開かれました！

5月27日(土)、創立150周年記念の「令和5年度春季大運動会」が開かれました。4年ぶりの全校そろっての運動会。今日の運動会ということから、子供たちは練習の時から、時間配分を考えて練習をしていました。全体での大玉送りの練習では、真剣そのもの。当日が楽しみでした。

そして、当日、天気も上々。テントの数は15、昨年より倍です。係の5、6年生の動きというところも素晴らしい!! 準備段階から表情が輝いていました。あっという間に準備が整い、いよいよ開会式。

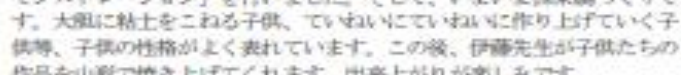
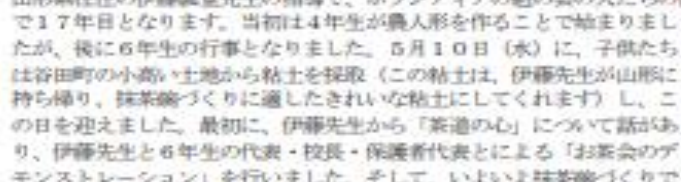
今年のスローガンは「150年分の笑顔あふれる 未来へ羽ばたく 浜田小学校」です。コロナ禍でできなかった3色応援団。応援団の復活で運動会は大いに盛り上がりました。創立150周年を迎えたことから、各学年の種日は「150」を意識した種日が続きました。そして、6年生による「浜田のかえる2023」。一時中断しましたが、浜田小学校が現在地に移って以来、少しずつ形を変えながら行ってきた種日です。6年生として最高学年の自覚をもっているようでした。

こうして、伝統をつなぎながら、一振団結を感じる運動会となりました。暑い中、たくさんの方に会場いただき、ありがとうございました。また、たくさんの方にボランティアとしてご協力をいただきました。重ねてお礼を申し上げます。



作陶教室が行われました！

6月16日(水)には、6年生による作陶教室が行われました。この行事は、浜田地区から採取した粘土から抹茶碗をつくり、最後に自分で作った抹茶碗を使い、お茶会をするという行事です。この行事は山形県在住の伊藤義堂先生の指導で、ボランティアの魅の会の人たちの協力を得ながら行う行事で、今年で17年目となります。当初は4年生が農人形を作ることで始まりましたが、後に6年生の行事となりました。5月10日(水)に、子供たちは谷田町の小高の土地から粘土を採取(この粘土は、伊藤先生が山形に持ち帰り、抹茶碗づくりに適したきれいな粘土にしてくれます)し、この日を迎えました。最初に、伊藤先生から「茶道の心」について話があり、伊藤先生と6年生の代表・校長・保護者代表とによる「お茶会のデモンストレーション」を行いました。そして、いよいよ抹茶碗づくりです。大皿に粘土をこねる子供、ていねいにこねる子供に作り上げていく子供等、子供の性格がよく表れています。その後、伊藤先生が子供たちの作品を山形で焼き上げてくれます。出来上がりが楽しみです。



自分たちの地元から採取した粘土を使い、抹茶碗を作り、お茶会を開くという一連の流れはまさに「地産地消」そのものです。日本の伝統文化に触れると共に礼節の心を学ぶことにもなります。



第1回学校運営協議会 第1回プロジェクト委員会

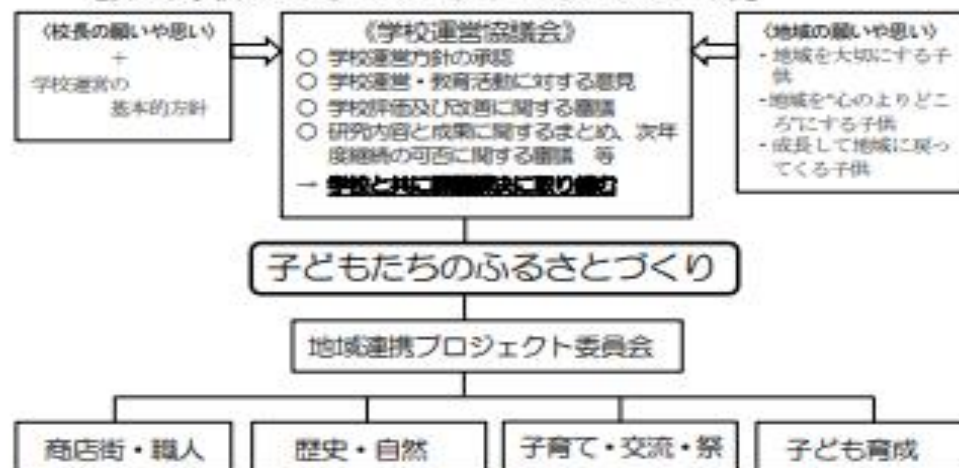
6月6日(火)に第1回学校運営協議会がコミュニティルームにて開催されました。学校運営協議会では、最初に新しい委員に水戸市から委託状の交付があり、続いて話し合いに入りました。校長から本年度の学校運営の基本的な方針の説明があり、質問や意見が交わされ、基本的な方針の承認と共に、本年度も「子どもたちのふるさとづくり」のために様々な行事を行っていくこととしました。その際、校長から現職意識が薄れてきているので、この意識を高めるために、コロナ禍で集団での活動がかなり制限されてきたので、行事などではできるだけ元に戻したいと話がありました。委員も賛同し、みんなで見守っていくということになりました。また、水戸市教育委員会生涯学習課からの参加もあり「地域学校協働活動」について説明がありました。



続いて、6月8日(木)には、第1回プロジェクト委員会がコミュニティルームにて開催されました。学校運営協議会で話し合われたことをもとに、各プロジェクト委員会で本年度の事業について話し合いが行われました。第1回としては、2時間近くも白熱した議論が交わされました。浜田小のコミュニティ・スクールでは、いわば「学校運営協議会」がブレーンで、「プロジェクト委員会」が実働部隊のような形になっています。



【浜田小学校におけるコミュニティ・スクールのしくみ】



※ コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」を設置している学校のことで、学校運営協議会とは、法律に基づき、教育委員会より任命された委員が一定の権限をもって、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関です。

校長が学校運営をする際には、学校運営協議会の承認が必要となります。学校と地域とで、どんな子供たちを育てたいのか等を学校運営協議会で話し合います。そのため、委員は個人的な意見のみを話すのではなく、より多くの地域の人たちの意見や考えを持ち寄り、話し合いに臨んでいます。

【これからの行事予定】

- 7月 3日(月)～7日(金) 学期末事務処理期間
- 7月14日(金) 授業参観・保護者会
- 7月20日(木) 第1学期終業式
- 8月16日(水) 子供灯籠流し(希望者)

学校運営協議会の様子

《学校運営協議会での校長の説明》

児童の現状と教員の勤務状況

担任兼務

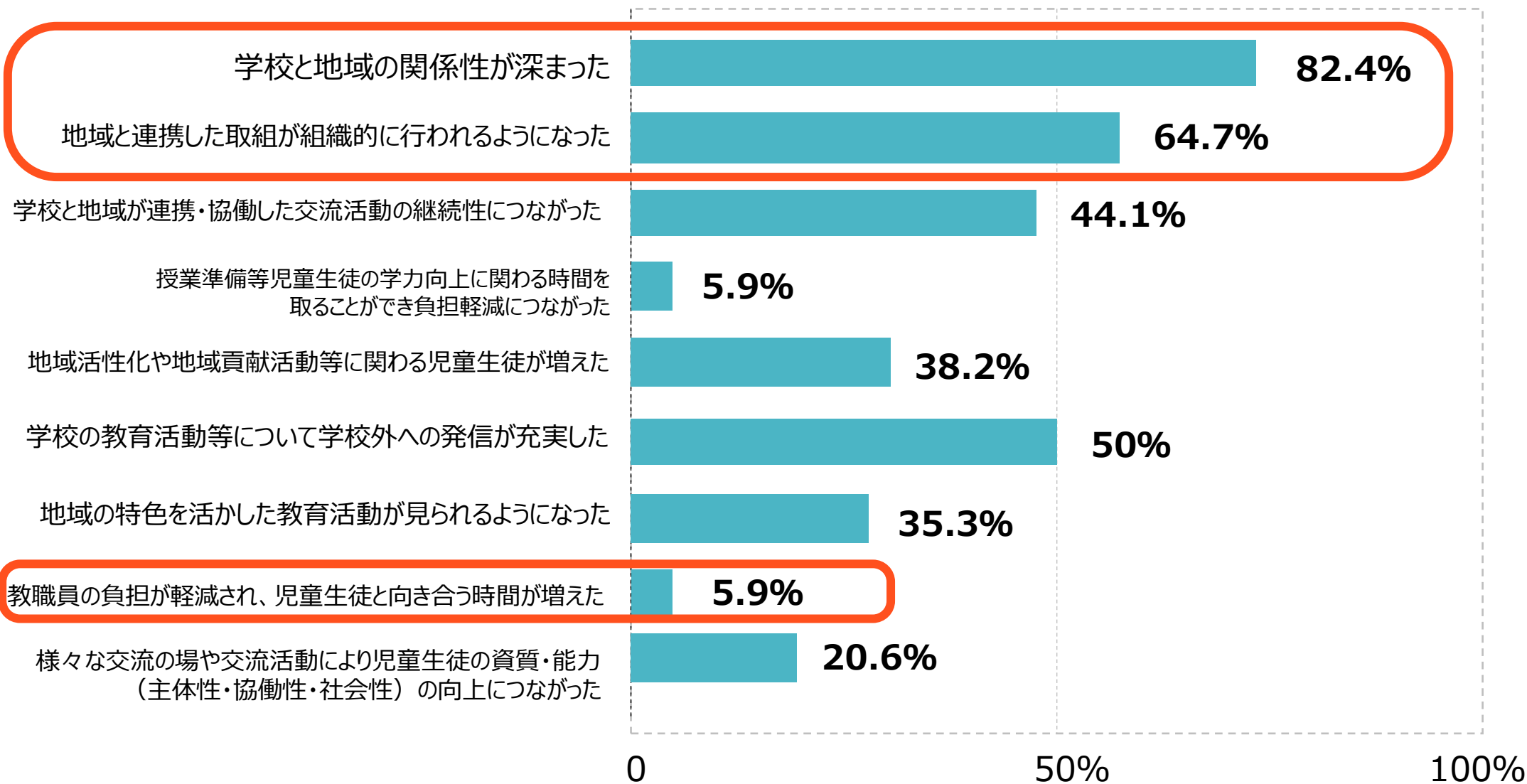
教務主任（地域連携担当教職員）の負担大
コミュニティ・スクール通信を兼ねた学校だより（学区内全世界帯配布）

教務主任の負担軽減

学校運営協議会委員が作成

『やれる人がやれる範囲で』という意識

Q:市民センター長が地域コーディネーターになって「よくなった」と感じたこと



双葉台小中学校の教員を対象に行ったアンケート結果

6 成果と課題、これからの方向性

成 果

学校と地域の課題が共有しやすくなった。

課 題

地域コーディネーターの役割

まだまだ・・・不十分

教員
及び
地域住民

地域学校協働活動の良さが十分実感できていない

市教育委員会としての方向性

- 各校の学校運営協議会に参加して、実態把握をし活動に対して助言していく
- 情報交換を中心とした地域コーディネーターの研修会を計画・実施



ご清聴ありがとうございました。

